

2025年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

【設問】大学生生活全般を振り返り、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。(2026年3月調査実施)

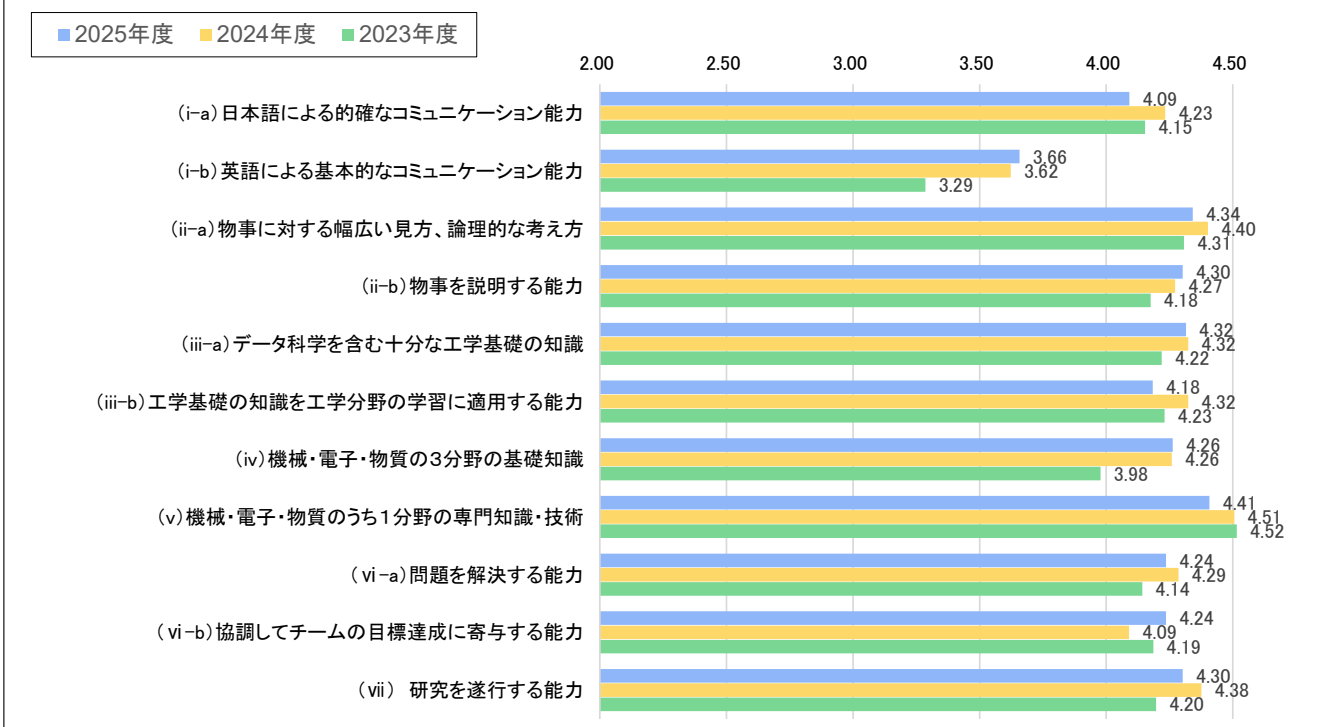
＜主な活動・出来事＞

1年次全寮制、講義・演習・実験・実習科目、教養科目、単位互換科目、英語科目、工学基礎科目、専門科目、学外実習、主専攻・副専攻履修、定期試験、レポート作成、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、海外英語演習、課外活動(同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ)、アカデミックアドバイザー・指導教員の指導、課題研究・卒業研究、研究発表会、学会発表、論文投稿、就職活動 など

【回答集計】

2025年度	回答率87%(回答者数76名/卒業者数87名)						平均 (5段階評価 点)
	身についた (5点)	まあ身についた (4点)	どちらとも言えない (3点)	あまり身につかなかった (2点)	身につかなかった (1点)	回答者数 (人)	
(i-a) 日本語による的確なコミュニケーション能力	26	35	11	4	0	76	4.09
(i-b) 英語による基本的なコミュニケーション能力	16	31	18	9	2	76	3.66
(ii-a) 物事に対する幅広い見方、論理的な考え方	35	34	5	2	0	76	4.34
(ii-b) 物事を説明する能力	29	42	4	1	0	76	4.30
(iii-a) データ科学を含む十分な工学基礎の知識	35	31	9	1	0	76	4.32
(iii-b) 工学基礎の知識を工学分野の学習に適用する能力	26	39	10	1	0	76	4.18
(iv) 機械・電子・物質の3分野の基礎知識	31	35	9	1	0	76	4.26
(v) 機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	36	36	3	1	0	76	4.41
(vi-a) 問題を解決する能力	25	44	7	0	0	76	4.24
(vi-b) 協調してチームの目標達成に寄与する能力	32	31	12	1	0	76	4.24
(vii) 研究を遂行する能力	31	38	6	1	0	76	4.30

2023-2025年度 経年推移



【結果まとめ】

- ・項目(v)は他の項目と比較して高水準で推移
- ・(i-b)の英語能力を除く評価はいずれも4.0以上で、学修成果が高いと言える。
- ・(i-b)英語による基本的なコミュニケーション能力は、ここ3年間では上昇傾向にある。他団体の調査でも英語能力に関しては、一律に低い傾向がみられる。英語の能力に対して理想が高いのが一因か。